

生誕130年記念

「古川爲三郎コレクション」

一富士

いちふじ

二刀

にかたな

三美人

さんびじん

古川爲三郎
生誕130周年
130th Anniversary

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。ごさいます。

令和二年一月で生誕百三十年を迎えます。これを記念しこの度古川美術館では、「古川爲三郎コレクション」一富士・二刀・三美人」を開催致します。

爲三郎の生涯を振り返りつつ、彼が蒐集した美術品の中から特に好きだった作品や、逸話の残る作品など、古川美術館の所蔵品の根幹をなす「爲三郎コレクション」の中からご紹介致します。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

古川美術館

10時～17時

(最終受付16時半)

月曜日 但し最終日は開館

公益財団法人 古川知足会

愛知県教育委員会、

名古屋市教育委員会、

中日新聞社、

beyond2020 プログラム

スターキャット ケーブルネットワーク株式会社

会場
開館時間

休館日
主催
後援



展覧会 基本情報

生誕130年記念展

「古川爲三郎コレクション

～ 一富士・二刀・三美人 ～」

開催要項

名称 「生誕130年記念「古川爲三郎コレクション
～ 一富士(いちふじ)・二刀(にかたな)・三美人(さんびじん) 」

趣 旨

古川美術館の初代館長である古川爲三郎は、明治23年（1890）1月18日、愛知県中島郡萩原村（現・一宮市）に生まれました。令和2年（2020）1月で生誕130年を迎えます。これを記念し「古川爲三郎コレクション 一富士・二刀・三美人」を開催致します。

古川爲三郎は平成7年（1995）5月に103歳でこの世を去りますが、事業をいくつも興し「生涯現役」、「百歳是青春」などの言葉を残しています。その言葉からもわかるように、常に前向きで夢多き人でした。爲三郎が最初に蒐集を始めたのが刀剣です。現在でも100振りほど所蔵していますが、その蒐集傾向は刀剣そのものよりも拵え（刀剣の外装）にあり、コレクションからは、爲三郎が武器としての刀剣ではなく、それを包み込む工芸的な美しさを持つ拵え（刀剣の外装）に魅力を感じていたことをうかがわせます。

また、実業家らしく日本一の富士山を好み、横山大観の富士山をはじめ、富士山を描いた作品を多く蒐集しました。そして地元を愛した爲三郎らしく、岐阜県中津川出身の前田青邨も好んで集め、特に前田青邨「薔薇」（1965年頃制作）は、爲三郎が《皇后さまの薔薇》と呼んで特に大事にしていました。その他、爲三郎コレクションには上村松園、伊藤小坡をはじめとする美人画、花や小動物を描いた花鳥画なども含まれています。これらの作品は現在分館 爲三郎記念館として公開している自宅、自身が楽しむだけでなく、自宅を訪れた客人をもてなすためのしつらえとしても愛でられた作品たちです。

本展はそんな爲三郎の生涯を振り返りつつ、彼が蒐集した美術品の中から特に好きだった作品や、逸話の残る作品など、古川美術館の所蔵品の根幹をなす“爲三郎コレクション”の中からご紹介致します。合わせて分館 爲三郎記念館では2月2日（日）まで、美術館では紹介しきれない、爲三郎のプライベートエピソードを遺愛の品と共に紹介致します。

会 期 2020年1月2日（木）～3月1日（日）
休館日 毎週月曜日（但し、祝日の場合は翌平日が休館）
会 場 古川美術館
主 催 公益財団法人 古川知足会
後 援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、beyond2020 プログラム
スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社
観覧料 大人1,000円 高・大学生500円 中学生以下無料
美術館単館 800円 記念館単館800円（呈茶券つき）

公益財団法人古川知足会

古川美術館 分館 爲三郎記念館

TEL052-763-1991（代表） Fax052-763-1994（直通）

担当学芸員： 学芸課 山内綾子（広報兼務）

mail：a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp

《 1F展示室 》

爲三郎コレクションの中から、横山大観、竹内栖鳳、川合玉堂、前田青邨、などお気に入りの作家作品を展示します。また、生前住んでいた屋敷（現・分館 爲三郎記念館）で、四季折々に爲三郎や来訪者の眼を楽しませた花鳥画なども合わせてご紹介します。その他、応援していた作家・成田陽、実際に地震が画廊などに足を運んで作品を選んだ作家の作品もご紹介します。



横山大観「海暁」1940年



川合玉堂「湖畔金風」



竹内栖鳳「秋雨」1912年



前田青邨「薔薇」1965年頃



成田陽「ご神木に鳩」

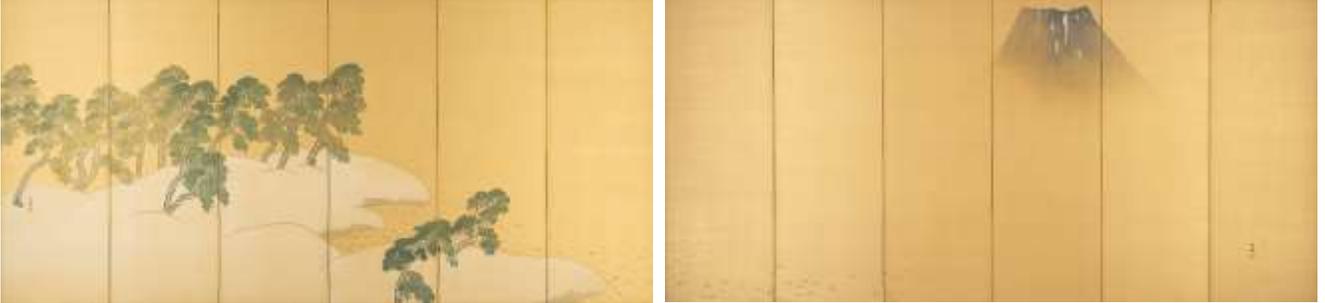
前田青邨「薔薇」は、青邨が昭和天皇の皇后（香淳皇后）の絵画指導をしていた時に、青邨の傘寿の祝いとして、香淳皇后から送られた薔薇の花を描いたものです。爲三郎が“皇后さまの薔薇”と呼んでいた、お気に入りの逸品です。

成田陽は爲三郎が応援していた画家です。本作は、岐阜県気多若宮神社に爲三郎と同行した折の写生を基に制作されました。その時成田は、爲三郎が御神木を伐採を止めた琴、その後爲三郎が重病になった時、ご神木が助命してくれたという話を聞きます。巨木に格別の思いを抱いていた爲三郎らしいエピソードに感銘した成田が、そのご神木をモチーフに、爲三郎の巨木への思いを表現した、爲三郎と作家の深い関わりを示す作品です。

《2F展示室》

爲三郎が最初に蒐集を始めた刀剣コレクションをはじめ、
爲三郎が一番好きだった横山大観の「三保の富士・松原」を中心にした富士
作品、美人画を展示し、新春展らしく「一富士・二刀・三美人」という爲三
郎の夢をご堪能下さい。

《一富士》



実業家らしく日本一の富士を好んで蒐集しました。中でも横山大観の「富士は大観に限る」とことのほか好んで
いました。本作「三保之富士・松原」もお気に入りの作品でした。
展示では、爲三郎コレクションより様々に表現された富士の姿をご覧ください。

《二刀》

爲三郎の美術品蒐集は刀剣から始まりました。刀そのものの美しさはもちろんですが、刀装の面白さ、美し
さにも魅了されたようです。本展では刀身だけでなく、刀装にも着目してご紹介します。



刀剣を眺める若き日の爲三郎



備州長船則光



本作、備州長船則光は鐔の部分：老人と唐子が戯れる意匠が見られたり、
鞘は梅花皮鮫黒研出となっていたりと、拵えとしても楽しめる作品です。
その他にも、初お披露目となる刀剣も数振りご紹介します。



新春にふさわしく大黒天とネズミの意匠をあし
らった正三位有功造の刀の小刀

《三美人》



古川美術館

爲三郎コレクションの重要な位置を占め
る美人画。江戸時代の浮世絵美人画も
蒐集していましたが、爲三郎は近代美人
画の方をより好んでいました。今回はその
近代美人画を代表する上村松園・伊藤
小坡、鐺木清方、伊藤深水他、洋画から
は伊藤清永、鬼頭鍋三郎をご紹介します。

お問い合わせは古川美術館 学芸課まで 052-763-1991



美術と数寄屋のおもてなし
FURUKAWA Art Museum
古川美術館

関連イベント

PRESS RELEASE

★学芸員によるギャラリートーク

日時 1月2日(木)、1月23日(木)、2月15日(土) 14:00～ 美術館のみ。

※ただし2/15のみ記念館15:00～ 土屋公雄によるアーティストトーク開催します

参加費 無料(別途2館共通入館券必要)

会場 古川美術館

★美術講座「古為(ふるため)さん～多くの人に愛されたそのひととなり～」要予約

初代館長古川為三郎の長い生涯を概観すると、新聞で紹介されるようなさまざまなエピソードを残しています。そんな為三郎の生涯を残された資料等を使って紐解きます。

日時 1月30日(木) 13:30～15:00(予定)

講師 山内綾子(担当学芸員)

参加費 無料(別途2館共通入館券必要)

会場 古川美術館 3階会議室

●分館 為三郎記念館のご案内●

1/2(木)～2/2(日):生誕130年記念に因んだしつらえ

2/6(木)～3/1(日):愛知県立芸術大学退任記念

「土屋公雄 ときめきの庭／記憶の部屋」

※「土屋公雄展」の展示の為、

2/4(火)・5(水)記念館のみ臨時休館。

※土屋展の詳細は別途チラシをご参照ください。

広報画像

※ご希望の画像を担当学芸員 山内綾子までお電話、もしくはメールにてご連絡ください。

mail: a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp



竹内栖鳳「秋雨」1912年



横山大観「海暁」1940年



横山大観「三保之富士・松原」



上村松園「初秋」1943年頃

お問い合わせは古川美術館 学芸課まで 052-763-1991



美術と数寄屋のおもてなし
FURUKAWA Art Museum
古川美術館